

大豆作難防除雑草「カロライナツユクサ」の防除体系の確立

農業研究部・水田農業グループ

1. 研究の背景

近年、大分県の北部地域を中心とした大豆作圃場において、外来の難防除雑草である「カロライナツユクサ」が問題となっており、まん延圃場では大豆の収穫不能となる事例が発生している。

そこで、生育期に全面散布可能な茎葉処理除草剤によるカロライナツユクサ防除体系を確立した。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

＜カロライナツユクサとは＞

- ・ 東南アジア原産のツユクサ科雑草
- ・ 葉などは在来ツユクサによく似ているが、図1に示すように花の形状が異なり、花期も9月末頃と遅いため、識別のポイントとなる。



カロライナツユクサ 在来ツユクサ

図1 花の比較

＜防除のポイント＞

- ・ 大豆バサグラン液剤、アタックショット乳剤がカロライナツユクサ3葉期まで有効である。
- ・ カロライナツユクサの発生ピークが終わる8月中旬まで、下記に示すように大豆バサグラン液剤、中耕培土、アタックショット乳剤による体系防除を行う。

※ 防除に当たっては、薬剤のラベルをよく読み、適正に使用すること。

＜防除体系例（7月中旬播種・中耕栽培）＞

時期	大豆	カロライナツユクサ	防除内容	防除時期（目安）
7月	中 播種	発生始	← 播種後土壌処理除草剤 ラクサー乳剤（500ml/10a）	播種後出芽前
	下 2葉期	3葉期	← 除草剤① 大豆バサグラン液剤（150ml/10a）	播種後約2週間
8月	上 3葉期		← 中耕培土1回	茎葉処理① の3日後～
	中 開花期	後発3葉期	← 除草剤② アタックショット乳剤（50ml/10a）	盆前～盆明け
	下	発生ピーク終 発生終		



図2 大豆成熟期のカロライナツユクサ残草状況

＜防除効果＞

大豆成熟期のカロライナツユクサ残草量が慣行の10%以下に低減され、手取り除草が不要となる。

3. 期待される効果

大豆作の除草作業の省力化および収量の安定化につながる。

4. 担当機関連絡先

農業研究部 水田農業グループ 水田農業チーム

TEL:0978-37-1160 FAX:0978-37-1898 住所:宇佐市大字北宇佐65

※本研究は農林水産省委託プロジェクト研究「生産現場強化のための研究開発－多収阻害要因の診断法及び対策技術の開発」の一環として実施した。